

筑後市交通安全協会だより

平成28年11月28日作成

○ 今年1月から10月までの事故状況（ ）は前年比です

	筑後市	筑後署管内	福岡県下
発生件数	331(-29)	619(-27)	30752(-2229)
死者	0(-3)	0(-3)	111(-4)

県下・筑後署の事故の発生件数はマイナスです。

○ 筑後署管内高齢者の事故状況(全事故の約36%)

年齢別

	筑後市	筑後署管内	福岡県下	65~74	75~80以上
発生件数	112(+8)	228(+30)	8932(-354)	137(+35)	91(-29)
死者	0(-3)	0(-3)	62(+0)	0	0

高齢者の死亡事故はあっていませんが、事故件数が昨年より5%増えています。

「年末の交通安全キャンペーン」

当協会としましては、筑後市から高齢者運転による事故や高齢者の歩行・横断での事故を1件でも減らすべく、昨年に引き続き筑後警察署や筑後市と協働で

「年末の交通安全キャンペーン・夜間における{参加・体験型}交通安全教育」

を行いました。(西日本新聞11月19日朝刊の筑後版で報道されました)

日時場所 平成28年11月16日(水)午後6時00分から 筑後自動車運転免許試験場

参加者 当協会員・市の交通指導員・各校区コミュニティ協議会等総勢70名

内容

最近の死亡事故の特徴の一つとして夜間・薄暮時の歩行中の事故があげられ、その原因が運転手による歩行者の発見遅れが指摘され、国も来年から

車のライトを上向きにして早く歩行者を発見し、事故を未然に防止する

等の交通安全施策を実施することになっていることから、高齢者に対する「前照灯効果」「反射材効果」等の視覚実験等を行ないました。

参加者全員が日ごろから交通安全活動に携っており、各実験には真剣に取り組みました。

○ 前照灯照射実験

ロービーム(下向きライト)・ハイビーム(上向きライト)それぞれの照射範囲を体験

○ 服装(黒・赤・白)色の違いによる視認性の実験

ロービーム・ハイビームそれぞれの照射による見え方を体験

○ 反射材活用実験

反射タスキ・アームバンド等の見え方

今回の実験で分かったこと

○ 運転者は常に前方を注視し、車のライトは周囲に配慮し上向きに照らして歩行者を早く発見する

○ 歩行者は夜間・薄暮時、運転者が早く自分に気づくように明るい服や反射材を身に着ける

当協会員は警察や様々な機関から交通安全教育を学び、それを基に皆様の交通安全に役立ちたいと願って活動しております。活動状況は当協会のホームページをご覧ください。

当協会は独立したボランティア団体で、皆様の善意ある入会金で運営しています

これから寒さが一段と厳しくなりますが、ご自愛のうえ良いお年をお迎えください。 事務局長 田中

